



炬火を掲げていざ謳う

No.58



我々の泉鳥取

2023年10月2日（月）

編集 泉鳥取高等学校閉校記念事業実行委員会

大阪府阪南市緑ヶ丘1-1-10

<https://www.osaka-c.ed.jp/custom91.html>

部活動列伝 吹奏楽部

山椒は小粒でもぴりりと辛い

文化部の花形といえば、吹奏楽・軽音楽・ダンスの舞台発表系のクラブでしょう。とりわけ吹奏楽部は、多くの人数が必要で、しかも音感やリズム感、腹式呼吸をトレーニングするためには、運動部並みの練習量が必要です。吹奏楽部の有無で学校の雰囲気が大きく変わります。本校の吹奏楽部は、途中栄枯盛衰がありながらも令和初年まで活動を続けてきました。



音量がありました。

彼は卒業後、陸上自衛隊に入り、陸上自衛隊第三音楽隊のトロンボーン奏者として1988(昭和63)年から2022(令和4)年まで伊丹の千僧駐屯地を中心に演奏活動をしていました。今は退官して、地域の吹奏楽でトロンボーンを吹いています。



陸上自衛隊時代の河合さん

音楽関係者の中では、「コンクールに出るか出ないか」ということでよく議論が行われました。いずれが正しいとは言えませんが、泉南地域は、コンクール参加校が少ないエリアでした。

泉鳥取高校の吹奏楽部もまた、コンクールよりもコンサートを重視していた時期が長いクラブです。吹奏楽部は、旧岸和田市民会館（岸和田城横、市役所の向かい側にあった）や阪南市サラダホールを借りて、定期演奏会を開いていました。

その中でもコンクールに出場した年がありました。1986(昭和61)年と1987(昭和62)年です。1986年、泉鳥取高校は高校Bの部で銀賞、1987年はその年から始まった南大阪地区大会で銀賞を獲得しています。この2年間のコンクール出場を積極的に進めたのは10期生の河合元樹さんでした。河合さんは副部長で、しかもプロのレッスンを受けるほどの熱心な部員でした。また、高校生としては特筆するほどの技術と

吹奏楽部はその後14期生以降沈滞し、しばらくは休部状態が続きました。20周年、30周年でも吹奏楽部のコメントがありませんが、この間、活動が行われたり、活動休止したりしていました。30周年の後、また吹奏楽を楽しむ生徒が少数ながらも入部し、現在の顧問が支援して、府立りんくう翔南高校と合同で9地区連合音楽会等で演奏したり、地域の子どもの行事で演奏したりしました。



1989(平成1)年11月4日 岸和田市民会館 第3回定期演奏会